

2021/12/14

(オマケの英語教室 see around) 書庫版



自分が Position talk という言葉を初めて耳にしたのは「株の世界」に於いてでした。

2011年の東日本大震災の直後

「むしろこういうときにこそ投資をしてお金を天下に回さねば」

と思い、復興に役立つ投資を効果的にするため、生まれて初めて証券会社という未知の門を叩き、その後ある独立ポジション系のエコノミストに出会った時に、でした。

では position talk とはどういう意味なのか？

邦訳すれば「立場上の話」でしょうか。

自分の経験を元に具体的にお話しをすれば、

ある証券会社主催の「今後の世界経済動向と有望株（又は債券や投信）について」と題するお客様セミナー会場に招かれたエコノミストが、恰も客観的な情報である事を装いながら、その実「証券会社が売り込みたい、言い換えれば招かれたお客様の利益より証券会社にとっての利益率が高い金融商品」の有望性を語る様な場合のことを指しておりました。

簡単に言うと「我田引水」「手前味噌」又は「竜頭蛇尾」を隠し、それを「針小棒大」に裏返す語り口。

しかしこの position talk が証券会社の専売特許なのかと言えばそんな事はなく、むしろ専売特許を相当数持っているのは

「政治」「ビジネス」「広告」の世界かもしれません。

そしてその世界が最も多く集まっているのが「ネットやメディアの世界」

言い換えればネットやメディアの世界とは「我田引水」「手前味噌」「竜頭蛇尾」を隠す「針小棒大」が渦巻く「意図だらけの2次加工世界」といえるかもしれません。

となれば、周りの未だ加工されていない現実世界に目をやらず、スマホ（是は完全な日本語英語で、英語では mobile phone といいます。因みに「ながら歩き（見）禁止」は while walking, texting NO!! といいます）ばかり見ているのは、初めから色の付いた2次加工世界に浸りっ

ばなし、誘導されっぱなしで居ると殆ど同義といえるかもしれません。

では何故ネットやメディアの世界が2次加工世界だと気づけるのか？

それは未だ加工されていない現実世界において、自分の五感を使って見聞きする風景を観察する事により感じられるものとネットやメディアの世界で言われている内容の「差」や「違和感」を虚心坦懐に見ていけば自ずと後者が2次加工の世界なのだと自然に感じられるからです。

なので、

Please see and look at real scene around you, then compare with it and media news on internet site. And check the differences, plz.

Sometimes you can easily find out it`s from position talk or not.

宜しければ、スマホ閲覧（mobile phone texting）の半分の時間を割いて、お試しくださいませ。